



## 校長室だより

月立小学校 校長 村上克弥  
令和2年12月25日  
☎55-2260 第7号

### 教育目標

ふるさとに誇りをもち  
夢と希望に満ちた  
心豊かでたくましい児童の育成



## 「多くのことから豊かな心を育み，視野を広げる」

12月の朝会で、「あなたはどっちのタイプ」という話をしました。「東大生が好きなアニメの主人公，どちらが好きか。」という内容のものです。ある新聞の記事に載っていたので紹介します。内容は以下の通りです。

### 「東大生が好きなアニメの主人公どちらが好きか。」

それは、ワンピースの「ルフィ」と鬼滅の刃「炭治郎」です。ルフィは完全に才能のタイプです。「悪魔の実」という禁断の果実を食べたことによって得た特殊な能力を持ち、特に修行を積んでいる描写も多くなく、基本は旅の続行を最優先として航海しているのに、彼の強さは留まるところを知りません。それは彼が戦いの中で成長していく「天才」タイプだからでしょう。

その一方で、炭治郎は自他ともに認める「凡人」です。作中にて自身でも言っている通り、彼は才能を「受け継いだもの」ではありません。その代わりに、彼は先祖から受け継がれた神楽舞と異常ともいえる量の努力で強くなり、強敵を倒していきます。まさに努力でのし上がっていった凡人タイプといえます。

天才肌のルフィも、努力家の炭治郎も、どちらも魅力的なキャラクターですよ。でも、東大生は「炭治郎のほうが好きだ」と答える人が多いということでした。いったいなぜ東大生はルフィよりも炭治郎のほうを選ぶのでしょうか？



なぜ、朝会でこのような話をしたかという、私は、野球が大好きです。なぜ野球が好きになったかは、テレビでプロ野球を見たこともそうですが、実は『巨人の星』というマンガが好きだったからです。主人公星飛雄馬は貧しい家庭に生まれ、元プロ野球選手の父親に子どもの頃から厳しい指導を受け、あこがれのプロ野球選手になり活躍するという話です。本来ならば生まれながらに右利きだったのを父親から左利きの投手に変えられ、プロになったものの、けがをし選手生命も危ぶまれる状態から、今度は右の投手として努力をし活躍するところがとても印象に残ったからかもしれません。また星飛雄馬は、大リーグボール1号、2号などの魔球をあみだし、強力バッターやライバルを三振に打ち取っていくところもとても面白く見ていました。子どもながらにホームをまねしたりする事もありました。他にも、子どもの頃は、スポーツマンガがたくさんありました。『赤き血のイレブン』（サッカー）、『アタックナンバーワン』（バレーボール）、『アニマルワン』（レスリング）、『明日のジョー』（ボクシング）、『タイガーマスク』（プロレス）などなどスポ根（スポーツ根性）のマンガに影響されました。

海外では、ジダンが『キャプテン翼』がきっかけでサッカーを始めたといいますが、メッシや F・トーレス、トッティーなども、『キャプテン翼』に出てくる選手にあこがれて、そのまねをしていたり、また、日本でも、中田、本田、中村俊輔、川口、岡崎などの選手が大きな影響を受けたというのは有名な話です。

たかがマンガ。されどマンガです。ここまで、マンガのメリットなどを述べてきましたが、人生の価値観を変えるマンガも数々あります。

例えば、手塚治虫氏の『火の鳥』です。時空を超えた壮大なスケールで、「命」という一つの大きなテーマが描かれています。自分は大きな宇宙の生命体の一つなのだと思知らされます。

『火の鳥』は人生観を大きく変える、日本マンガ界の最高傑作、後世に残る名作など多くの賛辞で称えられています。その他、やはり手塚治虫の作品ですが『ブッダ』です。こちらも「生きるとは何か」がテーマになっています。

また、大きな夢を現実のものとした『宇宙兄弟』、そして、「あきらめたらそこで試合終了ですよ」という名言があまりにも有名な『スラムダンク』。どちらも、最後まであきらめない美学が描かれています。

「マンガは子どもによくない」とひとくりにするのは誤りだと思います。また、確かに、マンガで悪影響を受ける場合もあるでしょうが、それはマンガに限りません。絵本の中にも、乱暴な人物や意地悪な人物は出てきますので、「マンガは子どもによくない」と考えるのはどうかと思われれます。

良いことも悪いこともマンガは影響力が大きいということは確かです。つまり、善悪を自分で判断し、自覚を持って行動する人間になるよう、教育するのが親だったり学校の先生だと思います。

子どもたちには、多くのことから、豊かな心を育み、そして、視野をどんどん広げていってほしいと思います。

子どもたちには、多くのことから、豊かな心を育み、そして、視野をどんどん広げていってほしいと思います。